

ウィーン会議後のヨーロッパの歴史の転換点は2つ！ 1830年の七月革命と1848年の二月革命。

19世紀前半はフランスでも産業革命が本格化、ヨーロッパの他の地域でも改革が行われたが、雇用は充分ではなく、人口増加に伴って貧民層が増大した。1840年代後半には、こうした状況に凶作と不況が加わった。こうして、1848年、革命の第3波（二月革命）がヨーロッパのほぼ全域をとらえ、ウィーン体制にとどめを刺した！

フランスでは労働者階級と中下層の自由主義ブルジョワジーが七月王政を打倒した。その影響は、ドイツ、ハンガリー、イタリアなどヨーロッパ各地に波及した（「諸国民の春」）が、反革命勢力の攻勢で敗北した。これ以降は、保守化したブルジョワジーと労働者階級の対抗が歴史を動かす大きな軸をなすようになる。そのような時代への転換点が1848年であった！

革命の第3波 1848年の諸革命

I フランス二月革命 既に1848年1月にイタリアでは民衆蜂起があった。

1) ヨーロッパ全域で1846年には凶作、1847～48年には経済恐慌があり社会不安は深刻化。

七月王政下のフランスでは、金持ち本位の自由主義政策で経済は成長し、工業化が進んで産業革命が進展した。その中で労働者階級とブルジョワジーの人口が増大した。七月王政は、有権者が全人口の0.6%の高額納税者という極端な制限選挙に守られて、少数の上層ブルジョワジーが支配する政権だった。中下層ブルジョワジーは、【1: 】改正を要求し、労働者階級もこれに同調したが、ギゾー内閣は拒否し続けていた。

七月王政は政治集会を禁止していたため、1847年以降各地で【2: 】を要求する「【3: 】」が開かれた。政治集会禁止の裏をかき「宴会」という名目で集まり乾杯の挨拶と称して演説を行った。急進共和派や社会主義者も合流し、要求は過激化、【4: 】の干渉も徐々に激しくなった。

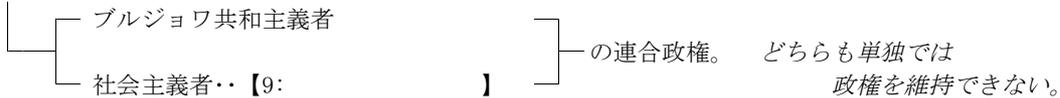
ギゾー内閣は、1848年2月22日、パリで予定されていた全国的な「改革宴会」を禁止し、改革宴会自体の禁止を打ち出した。これに対して、改革派とパリの民衆は22日行動を起こし、翌23日ルイ=フィリップはギゾーを罷免して事態の收拾をはかろうとしたが、激高した改革派とパリの民衆は23日、24日には武装蜂起に移行、バリケードを築いて市街戦を行い、国王の退位を求めて共和政を宣言し、24日テュイルリー宮殿を占拠した。同24日、国王ルイ=フィリップは退位。彼もギゾーもイギリスに亡命、七月王政は倒れた！これが【5: 】である！七月革命とは異なり、革命の主役は【6: 】であった。

2) 1848年2月23日 臨時政府が樹立された

首相は、ブルジョワ共和派でロマン派詩人の【7: 】1790-1869 11W
大革命以来の2度目の共和政、【8: 】1848～52である。

七月王政
第二共和政

臨時政府は



臨時政府の政策・・・労働者階級の要求を大幅に認めざるをえなかった。

- ①男子【10: 】の制定
- ②言論・出版・結社の自由の保証 → 200以上の新聞が発刊された。
- ③失業者に政府が職を提供する【11: 】の設置
- ④労働者の団結権の保証
- ⑤10時間労働制
- ⑥労働者のための政府委員会（リュクサンブール委員会、労働委員会。総裁はルイ=ブラン）の設置

3) ところが、男子普通選挙であったにも関わらず、1848年4月の総選挙で社会主義者は大敗北した。

社会主義者の土地政策で土地を失うことを恐れた【12: 】がブルジョワ共和派を支持したためである。このような小農民層の保守化は、1852年にルイ=ナポレオンの第二帝政を生むのである。

ブルジョワ共和派（穏健共和派）の新政権が成立し、同1848年、

- ①労働者のための政府委員会 は解散され
- ②失業者に政府が職を提供する国立作業場は閉鎖・解体された！（6月）
- ②に反対するパリの労働者が蜂起した。議会在全権を委任した共和派の軍人カヴェニャックは、パリに戒厳令を布告し、6月23日～26日の4日間に及ぶ激しい市街戦で、これを徹底的に弾圧し、多数の死者を出した。
- これを【13: 】（または六月暴動）といい、その敗北は各国の革命に甚大な否定的影響を与えた。

敗北後、ルイ=ブランはイギリスに亡命 11W。

☆政治的対抗の最大の要素は、資本家と労働者の階級的対立であることがますます明白になった！

II 1848年の諸革命

（諸国民の春）

二月革命は、ロシアを除くヨーロッパ各地に三月革命となって波及し、自由主義・民族主義、さらには社会主義の運動をひきおこし、ウィーン体制は崩壊した！パリの二月革命と各地の三月革命を総称して「諸国民の春」ないしは1848年革命と呼ぶ。

1) オーストリア（1848. 3. 13）・・・【14: 】起きる。自由と憲法を求めて学生・市民・労働者が決起。自由主義内閣が成立。オーストリア帝国内の諸民族も自由と自治を求めて立ち上がった。後掲3)4)ほか。メッテルニヒは

変装（しかも女装）してイギリスへ亡命。

- 2) プロイセン (1848.3.18) ……ベルリン三月革命起きる。市民・労働者が蜂起し、軍隊と衝突。自由主義内閣が成立、憲法の制定が約束された。5月には各邦から男子普通選挙で選出された全ドイツの代表が集まって【15:
】が開催され、ドイツの統一と憲法制定が討議された。
☆上の1)2)を合わせて **ドイツ三月革命** と言い、ドイツ統一を目指す動きが高まる。
マジャール人 (ハンガリー)・チェック人 (ベーメン)・イタリア人・スラヴ系の諸民族などからなる複合民族国家であった**オーストリア**では、**ウィーンの三月革命**に続いて各地で民族独立運動が起きた。
- 3) ハンガリー (マジャール人) 民族暴動 (1848.3) ……オーストリアに憲法改正を認めさせ、最初のハンガリー内閣を成立させた。1849年4月には【16:
】が独立宣言を発し、革命政府が樹立された。
- 4) ボヘミア (ベーメン) 民族運動 (1848.6) ……チェック人がオーストリアからの独立を求めて蜂起。自治を認められた。プラハでスラヴ民族会議が開かれ、チェコのバラツキーが議長を務め 11W、オーストリア内のスラヴ民族の団結を主張するなど、スラヴ民族の運動も活発化した。
- 5) イタリア民族運動 1848.3 ミラノ、ヴェネツィアで蜂起 (ヴェネツィアでは共和政を宣言)
1849.2 マツィーニら【17:
】がローマ共和国を樹立した。
- 6) ポーランドでも独立運動が起きた。
- 7) ベルギー、オランダ、スイス、北欧でも改革運動が高まった。
- 8) イギリスではチャーティスト運動が最後の盛り上がりを見せた。

III 革命の敗北

前掲1)~8)のように、「諸国民の春」が到来したかのように見えたが、これらの革命や変革の動きは、**反革命勢力の攻勢で、すべて敗北した**。自由主義者の多くは、革命の急進化を恐れて、【18:
】していた。ことにフランス、パリの労働者による**六月蜂起**は自由主義者を恐怖、震撼せしめた。六月蜂起が鎮圧されると、各地で保守勢力が力を盛り返した。

以下1)から5)は前掲IIの1)から5)に対応する。

- 1) オーストリア三月革命 (1848.3.13) の顛末……
4月、皇帝は**憲法制定議会**の開催を承認、自由主義的改革を約束したが、皇帝は、パリの**六月蜂起**の失敗を見て弾圧に転じ、**10月には革命はすべて鎮圧された**。
- 2) ベルリン三月革命 (1848.3.18) の顛末……プロイセン国王は憲法の制定を約束しブルジョア自由主義者を首相とする内閣を発足させた。5月には**フランクフルト国民議会**※が開催された。しかし、パリの**六月蜂起**の失敗、オーストリアの革命鎮圧成功で保守派が勢力を盛り返し、労働者の進出を恐れたブルジョワジーも王党派と妥協、11月、ベルリンに戒厳令がしかれ、**憲法制定議会** (フランクフルト国民議会とは別物) は解散させられ、革命は終わった。
1848.12.8 国王は**プロイセン欽定憲法**を制定した。……これをモデルにしたのが**大日本帝国憲法**。君主が制定した憲法を【19:
憲法】という。
※ 一方、三月革命の革命機運の中、プロイセンの憲法制定議会とは別に、ドイツの統一と憲法制定を話し合ってきた**フランクフルト国民議会** (実質ドイツ最初の議会と言える) では、【20:
】による**ドイツ統一が多数を占め**、1848.12ドイツ国民の基本法を制定。1849.3 **ドイツ国憲法**を作成した。しかし、ドイツ皇帝に推されたプロイセン王、**フリードリヒ=ヴィルヘルム4世** 位1840-61 は「革命派から与えられた帝冠は受けけない」と拒否。もともと国際的承認もない議会なのでこれを機に代議員が次々と帰国し、1849年プロイセン軍によって解散させられた。これによって、**下からのドイツ統一の道は閉ざされ、上からの力による国家形成が進められることになった**。これはNo.135で詳述する。
- 3) ハンガリー (マジャール人) 民族暴動 (1848.3) の顛末……1849年4月、**コッシュート 1802-94** が独立宣言を発し、革命政府が樹立された。しかし、1849年8月、ロシア軍の援助をうけたオーストリア軍によって**鎮圧された**。
ポーランド分割と戦った愛国者コシューシコ 1746-1817 との混同注意
- 4) ベーメン民族運動の顛末…… 1848.6 **オーストリア軍に鎮圧された**。
- 5) イタリア民族運動の顛末……1849年2月、**マツィーニら「青年イタリア」**によって「**ローマ共和国**」が樹立されたが、同年7月、教皇の要請を受けた**フランス軍の干渉で打倒された**。
- 6)7)8)については省略。

まとめ

1848年にヨーロッパ各地で起こった革命運動は、ウィーン体制を崩壊させたが、個々にはおおむね敗北をもって終わった。しかし自由主義とナショナリズムの運動は、もはや武力でしか抑え込むことができないほど成長し、19世紀後半の諸国に重要な課題を投げかけた。かつて、**労働者階級とブルジョワジーは、協力して革命を行ったが、もはやブルジョワジーは革命を望まない**。国民国家が樹立され、**政治参加が実現したから！**ブルジョワジーは、むしろ、革命によって労働者階級が力をもつことを最も恐れた。

